様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：１４６０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１６７２

研究課題名（和文）高校・大学・教職をつなぐ「教職キャリアカウンセリングプログラム」の開発

研究課題名（英文）Development of a "Teaching Career Counselling Programme" bridging upper-secondary, tertiary education, and the teaching profession

研究代表者
河崎　智恵（KAWASAKI, Tomoe）

奈良教育大学・教職開発講座・教授

研究者番号：５０３４６３００

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　12,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、欧州の先駆的な教職キャリアカウンセリングプログラムCCT(Career Counselling for Teachers)に関する文献研究及び実地調査をもとに、CCTを日本の文脈に合わせて翻訳した上で、CCT日本語版（Career Counselling for Teachers: Japan Version (CCT-J)）を開発した。開発したCCT-Jを、高校生、大学生、大学院生、教員を対象に実施し、教育効果等について検証し、その結果をもとに、日本人の特性をふまえたプログラムの修正を行った。最終的に、改善したプログラムをWeb版として公開し、普及に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究で開発したCCT-Jは、我が国では初めての、教職に特化したキャリアカウンセリングプログラムであり、教育的・学術的に重要な意味を持つと考える。最終的に Web版として公開したプログラムは、オンライン上で実施することが可能であり、高校や大学等の教育現場のみならず、教員研修等の場においても、幅広い活用が期待できる。今後は、CCT-Jを活用した教育実践を重ね、プログラムの普及に努めるとともに、横断的な教育効果の検証を行い、教員養成・研修に位置付けていくことが課題である。

研究成果の概要（英文）：Based on literature and on-site research concerning the pioneering European teaching career counselling programme (Career Counselling for Teachers (CCT)), the aim of this study was to translate the CCT into the Japanese context and develop a Japanese version of the CCT (Career Counselling for Teachers Japan Version (CCT-J)). The developed CCT-J was put into practice targeting Japanese upper secondary school students, pre-service and in-service teachers at the undergraduate and postgraduate level, and its educational effects and other aspects were analysed and verified. Based on the results, some modifications were made to the programme to take into account the characteristics of the Japanese people. Finally, the improved programme was released as a web version for dissemination.

研究分野：キャリア教育

キーワード：教職キャリア　キャリアカウンセリング　教員養成

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

我が国の教員養成は、これまで実践的な指導力等の職業的発達（職能開発）を重視し、資質や能力、特性等を理解した上で生き方を考える能力・態度の育成（キャリア発達）についてはほとんど触れられることはなかった。しかし、文部科学省答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（文部科学省, 2015）において、「教職課程の学生が学校や教職についての深い理解や意欲を持たないまま」教員として採用されていることが、課題として指摘され、「実践的指導力の基礎の育成に資するとともに、教職課程の学生に自らの教員としての適性を考えさせるための機会」の充実が求められるようになった。

一方、欧州では、教職の適性理解の重要性が以前より指摘され、教職キャリアカウンセリングの研究・開発が進展しており、大学入学以前より教職への理解を深めるプログラムも開発され、成果をあげている。日本でも、教員養成から教員研修への接続が課題とされる中、中等教育段階から教員養成、教職をつなぎ、教職に関する適性、自己の特性等をふまえたキャリアカウンセリングの開発が課題と考える。

２．研究の目的

本研究の目的は、教師のライフコースを視野に入れた教職キャリアカウンセリングプログラム（小・中・高等学校教員志望者及び現職教員）を開発することである。具体的には、教員養成課程入学前段階（高校）、教員養成段階（大学・大学院）、初任期教員、中堅期教員の各ステージにおけるプログラムを開発する。開発したプログラムは、高校生、大学・大学院生、および現職教員を対象に実践し､教育的効果を検証する｡最終的にはプログラムを Web 版として公開し、プログラムの普及に努める。

３．研究の方法

本研究では、以下の(1)から(4)の研究を往還的に進めながら、日本で活用可能な教職キャリアカウンセリングプログラムの開発を行った。

(1)欧州の教職キャリアカウンセリングの調査・分析: 欧州の先駆的プログラムの文献調査、及び実地調査（クラーゲンフルト大学、インスブルック大学等の実施機関、実践者のインタビューより、プログラム内容・方法・教育効果を分析する。

(2)日本における教職キャリアカウンセリングプログラムの開発: 日本で導入可能なプログラムを検討し、入手、翻訳し、日本の文脈に併せて修正を行った上で、高校・大学・教職の各ライフステージにおける教職キャリアカウンセリングプログラムを作成する。

(3)教職キャリアカウンセリングプログラムの実践: 作成したプログラムを、高校生、大学生、教員を対象に実施する。具体的には、「奈良県次世代教員養成塾」及び、奈良教育大学及び奈良教育大学教職大学院のキャリア関連授業において、実践する。

(4)教育的効果の検証およびプログラムの改善: プログラムの受講者を対象に､プログラム実施前後に質問紙調査を行い、教育的効果を検証する。

上記の結果を踏まえて、プログラムの修正を行った上で、最終的には Web プログラムとして公開し、プログラムの普及に努める。

４．研究成果

(1)教職キャリアカウンセリングプログラム CCT-J の開発

欧州の教職キャリアカウンセリングプログラムについて調査した上で、ドイツ語圏において最も活用されている“Career Counselling for Teachers”(以下、CCT) のプログラムを分析するとともに、クラーゲンフルト大学、インスブルック大学等の実施機関、実践者のインタビューを実施した。

CCT は、初等中等教育教員養成に関わり、高校生段階から教職生活においての 4 つのキャリアステージ（高校生、大学生、初任期教員、中堅期教員）を対象としている。その特徴は、①教職に関する理解、②自己理解、を基盤とし、③各段階におけるキャリア形成の振り返り、を重視していることである。特に、CCT の中核となる「自己理解のためのガイドツアー」は、オーストリアの全ての教育大学で、入学の際に実施証明書の提出が求められている。その結果は入学の合否にかかわるものではなく、学部選択における自己理解のために必須なものとして位置付けられており、高大接続の視座からも示唆に富む取り組みである。文献・実地調査の結果、CCT が教職への適性や理解を深める効果があることを確認することができた。

そこで CCT の開発者である Johannes Mayr 氏（CCT プログラム開発者）、Florian Müller 氏（CCT オーストリア代表）に、日本語翻訳およびプログラム作成の許諾を得て、翻訳作業を行った。翻訳の際には、オリジナルのテクストの表現をできる限り正確に保ったうえで、開発者に確認、同意を得ながら、日本の文化的・教育的背景をふまえた文脈化（応用的修正）を行った。このようにして翻訳したものは、再度、ドイツ語・英語に翻訳して、開発者の確認、了承を得るという、バックトランスレーション（Back Translation）を行った。

このような作業を経て日本語に翻訳したものが表 1「教職に関する興味・関心」、表 2「パーソナリティ」、表 3「予備的な教育経験」の各質問項目である。

例えば、表 1 の「教職に関する興味・関心」は、A「授業づくりをする」が 8 項目、B「社会的な関係作りを促す」、C「特別な要望に対応する、D「行動を監督･評価する」、E「保護者や同僚と協働する」、F「学び続ける」がそれぞれ 5 項目の、6 つの領域の全 33 項目で構成されている。日本で一般的ではない文言（例えば「ギフテッド」等）は使用せず、日本の教育環境に適応する表現に修正した。また、回答者が質問内容の場面設定をイメージしやすいよう、日本の教育環境（授業環境）等をふまえて修正した。例えば、「生徒が出来ることを確認・チェックする（直訳）」は「(次の学習につなぐために) 子どもの達成度を評価する」と修正した。また、「練習課題をつくる（直訳）」は「子どものために、学習課題を工夫する」とし、具体的な場面がイメージできるよう留意した。

以上のようなプロセスを経て、「教職に関する興味・関心」「パーソナリティ」「予備的な教育経験」の質問項目、及びフィードバックについて翻訳を行った。

表 1 「教職に関する興味・関心」の質問項目

A「授業づくりをする」ことに関する興味・関心	1 子どもたちにいろいろなことについて説明する。
	7 子どもが自分自身で（学習課題などに）取り組むよう支援する。
	10 授業のための教材をさがす。
	13 子どものために、学習課題を工夫する。
	20 複雑な問題を、理解しやすく説明する。
	23 子どものグループ活動のための準備をし、活動を促す。
	28 工夫を凝らした授業を構想する。
	33 以前に教えた学習内容を、振り返って指導する。
B「社会的な関係作りを促す」ことに関する興味･関心	2 子どもたちのもめごとを解決する。
	8 子どもたちと一緒に遠足等に行く。
	4 休み時間に子どもたちに話しかける。
	21 授業のすすめ方について、子どもの意見を取り入れる（子どもを授業づくりに参加させる）。
	30 グループ学習を改善するためにゲームやエクササイズを行う。
C「特別な要望に対応する」ことに関する興味･関心	6 転入生をクラスにとけこませる。
	12 障がいのある子どもを共に授業に参加させる。
	19 （心理的あるいは学習に関する）課題を抱えた子どもの立場になって考える。
	24 学習能力に課題がある子どもに対して、特別な練習問題を与える。
	31 学習能力の高い子どもに対して、特別な課題を与える。
D「行動を監督･評価する」ことに関する興味･関心	5 （次の学習につなぐために）子どもの達成度を評価する。
	15 ノート（子どもの書いたもの）を添削する。
	18 授業中の課題に多くの子供たちを参加させる。
	26 子どもたちの知識を評価する（テストや課題の採点をする）。
	32 子どもに学校のきまりやルールを守らせる。
E「保護者や同僚と協働する」ことに関する興味･関心	4 子どもたちの学習方法について保護者に説明する。
	9 指導上の問題点を同僚と話す。
	16 教室に保護者を招く（保護者を学校行事などに参加させる）。
	22 学校改善のために、管理職や同僚と協力する。
	27 保護者と子どもの教育問題について話し合う（個別相談を行う）。
F「学び続ける」ことに関する興味･関心	3 自分の担当教科の最新情報を得ながら勉強する。
	11 新しい授業方法（指導方法）について学ぶ。
	17 （自分自身が）文化的な活動に参加する。
	25 （教員としての能力を高めるために）教育に関する現職研修に参加する。
	29 世の中の最新情報を入手する。

(2) CCT-J の実践・評価

翻訳したプログラムは、ペーパー版として作成し、奈良県次世代教員養成塾（高校生対象）、及び奈良教育大学（大学生対象）、奈良教育大学教職大学院（大学院生・現職教員対象）において実践した。本報では、CCT 日本語版（CCT-J）において特に重要な意味を持つ高校生に焦点を当てて、実践結果を報告する。

2019 年 10 月から 2020 年 8 月、奈良県次世代教員養成塾の受講生 42 名を対象に、CCT-J ガイドツアー（「教職に関する興味・関心」「パーソナリティ」「予備的な教育経験」）を実施した。奈良県次世代教員養成塾は、奈良県教育委員会と奈良県内の大学が連携して開発を行なった、教員を目指す高校生向けの講座であり、全 10 回（1 回約 3 時間）で構成される。本講座の初回（第 1 回）は教職に対するビジョンの向上をテーマとしており、CCT-J を活用し、教職に関する自己理解を深めるものである。また、講座の最終回（第 10 回）には、CCT-J を再度実施し、自らの成長を認識する機会とした。

各回での CCT-J 実践後に、先行研究（Nieskens et al. 2011, マイヤー 2015）の質問項目をもとに作成した、CCT-J の効果に関するアンケート調査を実施した。質問項目は、「情報提供の効果」「自己省察を促す効果」「自己評価を促す効果」「キャリア選択の効果」「成長促進の効果」の 5 つのカテゴリーに関する計 16 項目であり、「まったくあてはまらない」(1)から「非常にあてはまる」(5)の 5 件法にて回答を求めた。

表 2 「パーソナリティ」に関する質問項目

1	物静かな	—	活発な
2	物事に動じにくい	—	物事に動じやすい
3	自制心がない	—	自制心がある
4	内向的な	—	外交的な
5	自分に満足している	—	自分に満足していない
6	軽率な	—	慎重な
7	心の冷たい	—	心の温かい
8	自信がある	—	自信がない
9	規律心がない	—	規律心がある
10	一人でいたい	—	人と一緒にいたい
11	打たれ強い	—	打たれ弱い
12	おおざっぱな	—	きっちりとした

表 3 「予備的な教育経験」に関する質問項目

1	あなたは子どもまたは青少年（一人）のために、余暇活動を行ったことがありますか。 (例：本の朗読、遠足の企画など)
2	あなたは子どもたちまたは青少年の集団のために、余暇活動を行ったことがありますか。 (例：誕生会の企画運営、野外活動場での補助など)
3	あなたは子どもまたは青少年（一人）のために、トレーニングをしたり、授業を行ったりしたことがありますか。 (例：将棋を教える、家庭教師をするなど)
4	あなたは子どもまたは青少年の集団のために、トレーニングをしたり、授業を行ったりしたことがありますか。 (例：絵画教室で教える、野球チームを率いるなど)

① CCT-J の総合評価（フィードバック）の結果

表 4～6 は、初回（第 1 回）と最終回（第 10 回）における、「教職に関する興味・関心」「パーソナリティ」「予備的な教育経験」の総合評価（フィードバック）の結果である。

「教職に関する興味・関心」については、feedback 1（最も興味・関心が高い、すなわち最も適性があると判断される）の割合が高かった（初回: 76.9%、最終回: 85.7%）。「パーソナリティ」については、多少のばらつきはあるものの、feedback 5（適性が低い、より検討が必要と判断される）の割合が高かった(初回: 46.2%、最終回: 28.6%）。「予備的な教育経験」については、feedback 5（適性があると判断される）(初回: 38.5%、最終回: 23.8%)、及び feedback 6（最も適性があると判断される）(初回: 34.6%、最終回: 52.4%)の割合が高かった。

以上の結果より、プログラムを受講した高校生は、「教職に関する興味・関心」「予備的な教育経験」においては高い適性を備えていると思われる一方で、「パーソナリティ」に関しては必ずしも適性があるとはいえない傾向を示唆していた。

② CCT-J の効果に関する質問紙調査の結果

表 7 は、CCT-J の効果に関する質問紙調査の結果である。5 つのカテゴリーのうち、「自己省察を促す効果」「自己評価を促す効果」「成長促進の促進」については、初回実施後より、既に平均値が 4.0 以上と高かった。このことより、CCT-J は、自己省察、自己評価、成長促進において効果的であることが明示された。

一方、「情報提供の効果」及び「キャリア選択の効果」においては、初回の実施後では 3.0 台と低かった。ただし、*t* 検定の結果、「情報提供の効果」「キャリア選択の効果」ともに、最終回では、初回の平均値より有意に高くなっていた。また、ほぼすべてのカテゴリーにおいて、最終回では平均値が上昇していた。

以上の結果より、CCT-J 及び CCT-J を活用したキャリア教育プログラムには、一定の教育効果が認められた。しかし、パーソナリティのフィードバックについては、検討すべき課題が示された。

表 4 「教職に関する興味・関心」における総合評価（フィードバック）の結果

実数は回答数,（ ）内は%

教職に関する興味・関心	初回 N＝26	最終回 N＝42
feedback 1	20(76.9)	36(85.7)
feedback 2	4(15.4)	2(4.8)
feedback 3-1	0	1(2.4)
feedback 3-2	0	0
feedback 4	0	0
feedback 5	0	0
feedback 6	1(3.8)	3(7.1)
feedback 7	1(3.8)	0

表 5 パーソナリティにおける総合評価（フィードバック）の結果

実数は回答数,（ ）内は%

パーソナリティ	初回 N＝26	最終回 N＝42
feedback 1	6(23.1)	8(19.0)
feedback 2	1(3.8)	5(11.9)
feedback 3	6(23.1)	13(31.0)
feedback 4	1(3.8)	4(9.5)
feedback 5	12(46.2)	12(28.6)

表 6 予備的な教育経験における総合評価（フィードバック）の結果

実数は回答数,（ ）内は%

予備的な教育経験	初回 N＝26	最終回 N＝42
feedback 1	0	1(2.4)
feedback 2	1(3.8)	1(2.4)
feedback 3	1(3.8)	0
feedback 4	5(19.2)	8(19.0)
feedback 5	10(38.5)	10(23.8)
feedback 6	9(34.6)	22(52.4)

表 7 CCT―J ガイドツアー実施後の意識変化

カテゴリー	質問項目	初回（*N*＝26） 平均値	初回（*N*＝26） *SD*	最終回（*N*＝42） 平均値	最終回（*N*＝42） *SD*	*t* 値
情報提供の効果	1 はっきりとは知らなかった教員の職務内容を知ることができた	4.50	0.58	4.81	0.46	-2.307 *
	2 はっきりとは知らなかった職務上の困難について知ることができた	4.04	0.82	4.62	0.58	-3.402 **
	3 教職のイメージが変わった	3.19	1.02	3.93	0.89	-3.125 **
	＜情報提供の効果＞全体	3.91	0.62	4.45	0.46	-4.15 **
自己省察を促す効果	4 進路を検討するきっかけとなった	3.92	0.85	4.33	0.90	-1.867 †
	5 教職が自分の興味・関心に合っているかを考えるきっかけとなった	4.62	0.50	4.43	0.80	1.068
	6 教職の能力があるのかどうか深く考えるきっかけとなった	4.65	0.56	4.38	0.70	1.685 †
	＜自己省察を促す効果＞全体	4.40	0.45	4.38	0.68	0.11
自己評価を促す効果	7 教職についての情報をさらに探そうと思った	4.31	0.68	4.33	0.69	-0.15
	8 周囲の人と進路について話そうと思った	3.62	0.94	4.29	0.77	-3.193 **
	9 自分のキャリア選択をはっきりさせるために、教育実習を行いたいという気持ちが強くなった	4.42	0.64	4.48	0.71	-0.311
	＜自己評価を促す効果＞全体	4.12	0.53	4.37	0.50	-1.956 †
キャリア選択の効果	10教員になろうという気持ちが強くなった	4.38	0.70	4.36	0.88	0.135
	11教員に向いているのかを改めて考えるきっかけになった	4.38	0.57	4.55	0.63	-1.071
	12他の職業を探すべきだという認識にさせられた	1.92	0.80	2.64	1.03	-3.038 **
	＜キャリア選択の効果＞全体	3.56	0.34	3.85	0.49	-2.586 *
成長促進の効果	13どのような資質能力を形成するべきかを示してくれた	4.08	0.85	4.12	0.89	-0.193
	14どのような研修を受けるべきかのヒントを与えてくれた	3.73	1.04	4.17	0.73	-1.869 †
	15自分の興味関心を真剣に捉える勇気が出た	4.15	0.73	4.29	0.74	-0.716
	16どのような長所を伸ばしていくことができるか意識できた	4.27	0.60	4.31	0.68	-0.247
	＜キャリア選択の効果＞全体	4.05	0.62	4.25	0.60	-1.338

† p<.10 * p<.05 ** p<.01

(3) CCT-J の改善及び Web 版の公開

上記の結果をもとに、CCT の開発者である Johannes Mayr 氏と共に、欧州（CCT）と日本(CCT-J)の結果を比較、検討した。その結果、日欧では、パーソナリティの回答に大きな差が認められ、日本側(CCT-J)では、「適性が低い、より検討が必要と判断される」と判断される割合が著しく高いことが明らかになった。この背景には、日本人の自己肯定感が諸外国と比較して低い傾向にあること(Schmitt et al., 2007, 内閣府 2019)が影響していると推察される。このような背景をふまえて、CCT-J においては、特にパーソナリティの項目において否定的な印象を与えないような表現に修正するとともに、結果の提示においても否定的な表現を避け、フィードバックをもとに前向きな検討が可能となるよう表現を修正した。

このように改善した CCT-J プログラムは、最終的に、各自任意のタイミングで実施できるように、Web 版としてインターネット上にて公開した。写真 1 は、CCT-J（Web 版）のトップページである。プログラム利用者は、各ステージ（高校生・大学生・初任期教員・中堅期教員）のうち、該当する写真をクリックすると、各ステージの質問項目のページへと移動できように構成される。なお、トップページにおいては、入力情報が回答者自身へのフィードバックに利用されるとともに、個人を特定できないように処理をした上でガイドツールの改善等に利用することがある旨の説明を記載している。

写真 2 は、パーソナリティに関する質問項目のページ（一部）である。利用者は、各質問に該当する部分をクリックしながら回答を行い、最終的にフィードバックを得られるようになっている。なお、質問項目入力前の画面においては、研究利用の可否について選択できるようになっており、同意を得た回答者のみ、ログが回収されるように設定している。

本研究の結果、我が国では初めての教職キャリアカウンセリングプログラムを開発することができた。本プログラムは、高校や大学、教員研修等で幅広く活用することが期待される。今後は、その普及を進めるとともに、教育効果を横断的に調査し、教員養成・研修に位置付けていくことが課題と考える。

写真 1 CCT-J Web サイトのトップページ
（https://ride.nara-edu.ac.jp/cct-japan/）

＜引用文献＞

① CCT: Career Counselling for Teachers. https://cct-austria.at (参照 2024-06-10).

② CCT-J: Career Counselling for Teachers: Japan Version (教師のためのキャリアカウンセリング) https://ride.nara-edu.ac.jp/cct-japan/ (参照 2024-06-10).

③ 内閣府(2019)「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成 30 年度)」.

④ Nieskens, B., Mayr, J. & Meyerdierks, I. (2011) CCT-Career Counselling for Teachers: Evaluierung eines Online-Beratungsangebots für Studien-interessierte. *Lehrerbildung auf dem Prüfstand* 4, pp. 8-33.

⑤ Schmitt, D. P., Allik, J., McCrae, R. R. & Benet-Martínez, V. (2007). The Geographic Distribution of Big Five Personality Traits. Patterns and Profiles of Human Self-Description Across 56 Nations. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 38(2), pp.173–212.

⑥ ヨハネス・マイヤー・翻訳: 横山香(2015)「教職課程に入る? 教職課程に入らせる?: キャリアカウンセリングと入学者選抜の発展的構成」『兵庫教育大学学校教育学研究』28 号、pp.113-123.

写真 2 CCT-J Web サイト ガイドツアー
「パーソナリティ」のページ
（https://ride.nara-edu.ac.jp/cct-japan/）

謝辞：本研究は、奈良県教育委員会の協力を得て実施されました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 河崎智恵，吉村雅仁，横山香，古田壮宏	４．巻 17号
２．論文標題 教職キャリアカウンセリングツール「CCTJ ガイドツアー」の開発と実践	５．発行年 2021年
３．雑誌名 キャリアデザイン研究	６．最初と最後の頁 117-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹村謙司，石井宏典，河崎智恵	４．巻 1
２．論文標題 「奈良県次世代教員養成塾」の取組と 教育効果の検証－受講生への質問紙調査等の比較結果から－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 奈良県立教育研究所令和元年度研究紀要	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Tomoe Kawasaki, Masahito Yoshimura
２．発表標題 Career Education for Teachers toward an Inclusive Society: Focusing on the Issues of Sexual Diversity
３．学会等名 IAEVG 2019 Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tomoe Kawasaki, Kaori Yokoyama, Masahito Yoshimura, Takehiro Furuta
２．発表標題 CCT Japan: Erste Erfahrungen mit der Gefuhrten; Tour 1
３．学会等名 学会「Internationale deutschsprachige Expert/innen-Tagung zu Auswahl- und Aufnahmeverfahren an Institutionen der Lehrer/innenbildun　（教員養成機関の選抜・入試方法に関するドイツ語圏専門者の国際会議）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Tomoe Kawasaki, Msahito Yoshimura
２．発表標題 Implementation of a Career Counselling for Teachers with High School Students in Japan: Toward the Development of an Online Program
３．学会等名 IAEVG 2022 International Conference
４．発表年 2022年

〔図書〕　計1件

１．著者名 Johannes Mayr, Tomoe Kawasaki, Judith Kramer, Florian H.Mueller & Birgit Nieskens. (in press)	４．発行年 2024年
２．出版社 Waxmann	５．総ページ数 -
３．書名 25 Jahre CCT	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	吉村　雅仁 (YOSHIMURA Masahito) (20201064)	奈良教育大学・教職開発講座・教授 (14601)	
研究分担者	古田　壮宏 (FURUTA Takehiro) (60453825)	奈良教育大学・教育連携講座・教授 (14601)	
研究分担者	横山　香 (YOKOYAMA Kaori) (70727750)	奈良大学・文学部・教授 (34603)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中澤　隆志 (NAKAZAWA Takashi) (90804930)	奈良県教育大学・教職開発講座・准教授 (14601)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	マイヤー　ヨハネス (MAYR Johannes)	University of Klagenfurt・Prof. i.R.	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストリア	University of Klagenfurt			